

免疫学的検査における干渉物質の影響の検索に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間: 2026 年 7 月 22 日～ 2028 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

免疫学的検査における干渉物質の影響の検索

〔研究目的〕

血液検査では、抗原と抗体の反応を利用して測定する「免疫学的検査」が多く用いられています。しかし、この検査は血液中に存在する特定の物質により、本来の値とは異なる結果が出てしまうことがあります。本研究では、このような検査結果に影響を与える物質(干渉物質)に注目し、検査結果にどのような影響を及ぼすのかを調べることを目的とします。

〔研究意義〕

免疫学的検査は感染症、ホルモン検査、自己免疫疾患などの診断に広く用いられています。そのため、干渉物質による検査値の誤差を理解することは、より正確な検査結果の解釈につながります。

〔対象・研究方法〕

臨床検査で使用された後に廃棄決定となった残余血清(廃棄血清)を研究用試料として使用。免疫学的検査(甲状腺関連ホルモン、炎症性蛋白物質、抗核抗体)における干渉物質の影響を評価します。具体的には、干渉が知られている物質(例:リウマトイド因子)を含む試料を用いて免疫測定を行い、検査値の変化を解析します。

〔研究機関名〕

帝京大学医療技術学部臨床検査学科 帝京大学医学部附属病院中央検査部

〔個人情報の取り扱い〕

残余検体は、検査後 2 週間は病院で個人同定可能な状態で保管されていますが、それ以降は廃棄されます。採血から 2 週間以上経過後、個人情報を削除した後に患者様からデータ、検体を使用しないよう要望があった場合は、個人の特定ができないため、除外不可能となることがあります。また、研究結果は統計的に処理しますので、研究参加者が特定されることはありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査の研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 上村 佑太 助教
所属: 帝京大学医療技術学部臨床検査学科
住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211(代表)